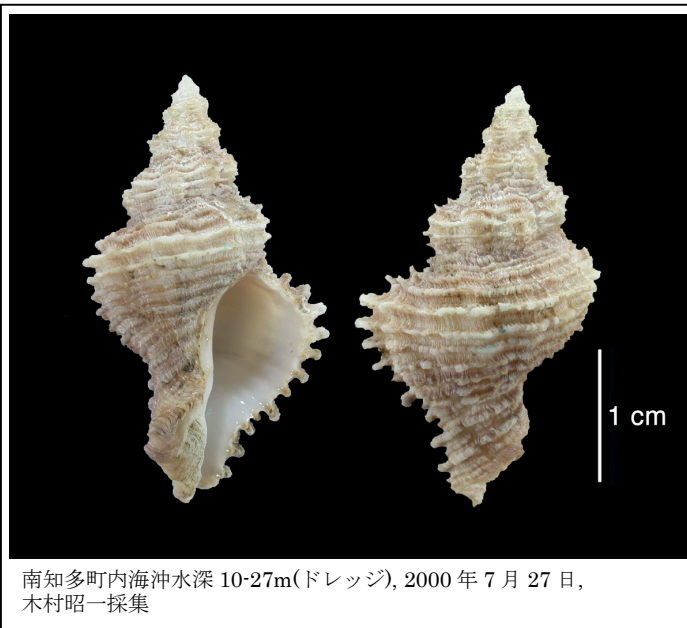


ヒラドサンゴヤドリ *Coralliophila jeffreysi* E.A. Smith

【選定理由】

本種は、内湾の湾口部の潮下帯に生息するキサソゴ類に外部寄生する。本属の貝類は外洋性の種がほとんどで、本種は唯一内湾に生息する種であり、外洋には生息しない。県内では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯の貝類相が著しく単純化している。本種も三河湾湾口部、知多半島内海沖の伊勢湾から少数の死殻が採集されているだけで、生貝は採集されていない(中山, 1980: 木村, 1996: 木村, 2000)。内湾に生息するキサソゴ類は潮通しの良い岩礁に生息しており、このような環境は非常に少なくなっている。近年の三河湾島嶼域での調査でも死殻さえ確認されていない。絶滅の可能性が非常に高い種であると評価された。



【形態】

殻長約 25 mm の紡錘型の貝で、殻は厚く太い強い縦肋を持ち、鱗片状の突起が発達する。殻は淡褐色で殻口は白色。カゴメガイ *Bedevina birileffi* (Lischke) はやや本種と近似するが、殻は小形で細く、殻表と殻口内は濃い紫褐色で殻表の鱗片状の彫刻が細かい。

【分布の概要】

【県内の分布】

【選定理由】の項参照。

【世界及び国内の分布】

日本、朝鮮半島。国内では三河湾、伊勢湾、瀬戸内海、玄界灘に分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

【選定理由】の項参照。

【保全上の留意点】

上述したように、県内潮下帯の環境を保全する。

【特記事項】

伊勢湾口からさらに外洋側の志摩半島沖のキサソゴ類には本種は寄生しない、数少ない内湾性のサンゴヤドリ類である。生息水深帯がやや深く、モニタリングが困難な事もあり、国のレッドデータブックには掲載されていないが、少なくとも瀬戸内海、伊勢湾の個体群については、今後絶滅危惧個体群とすることも考慮するのが望ましい。

【引用文献】

木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第 35 報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.

木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, (26): 18-20. 名古屋貝類談話会.

中山 清, 1980. 知多湾南部海域の貝類相. かきつばた, (6): 10-12. 名古屋貝類談話会.

(木村昭一)